

■ 若手外科医育成へ クラウドファンディング目標達成

大学院医学系研究科総合外科学講座が「次世代外科医の育成」を掲げ、1月13日から4月13日まで実施したクラウドファンディングは、目標1,200万円に対し、213人から総額14,642,000円の寄付が集まり、目標を達成しました。

プロジェクト名は「医療の「これから」をみんなで支える。群馬から未来の外科医を育てよう」。

外科医療はロボット支援手術などの技術革新が劇的に進み、一人ひとりの外科医には最新の知識と手技へのアップデートが求められています。

しかし課題があります。教育環境の整備や高度な教材開発には多大な時間と費用がかかり、大学独自の予算や努力だけでは十分に拡充・継続することが難しいのが現状です。また、群馬県内の外科医数はこの20年で約20%減少しており、地域の高度医療の維持が困難になるという危機的な状況にあります。

こうした背景から、次世代の外科医を志す若き医師たちが、確かな知識と技術、そして自信と誇りを持って学べる環境(学びの場)を安定的に維持・発展させることがクラウドファンディングの目的でした。

いただいたご支援は、若手外科医が確かな知識と技術を身につけるための教育・研鑽活動や研究支援の取り組みに活用させていただきます。



■ 循環器内科が「腎デナビーション治療」を県内初導入

医学部附属病院循環器内科は、複数の降圧薬を用いても血圧管理が難しい治療抵抗性高血圧の患者を対象に、カテーテル治療「腎デナビーション治療」を県内で初めて導入しました。

高血圧は国内で約4,300万人が罹患していると推計される国民病であり、自覚症状が乏しい一方で、脳卒中、心筋梗塞、心不全、慢性腎臓病などの重大な疾患を引き起こすことから、「サイレントキラー」とも呼ばれています。血圧管理の良否は健康寿命や生命予後に直結する重要な課題です。

腎デナビーションは、足の付け根などからカテーテルを挿入し、腎動脈周囲の交感神経に高周波または超音波を照射する治療。血圧上昇に関わる交感神経の過剰な働きを抑えることを目的としており、2026年3月から保険診療で使用可能となりました。

対象は、利尿薬を含む3種類以上の降圧薬を使用しても十分な効果が得られない患者。腎デナビーションは一度の治療で24時間365日効果が持続することが期待され、飲み忘れの影響を受けないことも特徴です。薬物療法に加わる新たな選択肢として、服薬負担の軽減や血圧管理の改善が期待されます。



図：腎デナビーション治療のイメージ
(提供：医療機器メーカー メドトロニック)